

作: 栄畑南美(えばた なみ)  
老年学情報センター

# 養育院感化部 井之頭学校とブラスバンド

東京都健康長寿医療センターの前身である養育院は、1872 年（明治 5 年）に病人、孤児、障害者、困窮者などの保護施設として設立され、渋沢栄一が養育院院長を長く務めました。養育院には子どものための施設もありました。その中の 1 つが、非行少年の更生をはかる「養育院感化部 井之頭学校」です。現在の井の頭恩賜公園のお隣り、井の頭自然文化園のある場所に設置されました。

今回は、井之頭学校についてご紹介します。

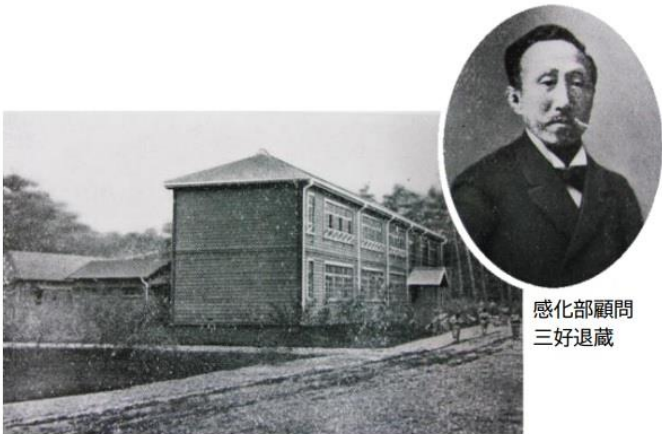
1894 年の日清戦争の前後より東京市内に浮浪少年が増加し、養育院でも受け入れを開始しました。1900（明治 33）年、養育院に非行少年のための専門施設として感化部が開設されました。しかし、同一敷地内に入所していた普通孤児への悪影響があったため、養育院本院と感化部の敷地を別にする必要が生じました。1905（明治 38）年宮内省御料地だった武蔵野村井之頭を借り受け、感化部は「養育院感化部 井之頭学校」として移転します。この時の児童数は 26 名でしたが、1910（明治 43）年の時点で「創立以来感化部に収容せし人員は 397 名」との記述が東京市養育院写真帖（明治 43 年発行）にあります。

井之頭学校では学科の勉強の他に、少年たちの将来の自活のため、ミシン裁縫、農業、園芸、木工などの授業も行われていました。



農業科の作業 昭和 7 年  
（創立六十周年記念写真帖より）

また、井之頭学校では、少年たちの心の教育のため、狂言やブラスバンドなどの活動も行われていました。ブラスバンドに関する記述を、創立六十周年記念写真帖から旧字を修正し句読点を補って裏面に引用します。



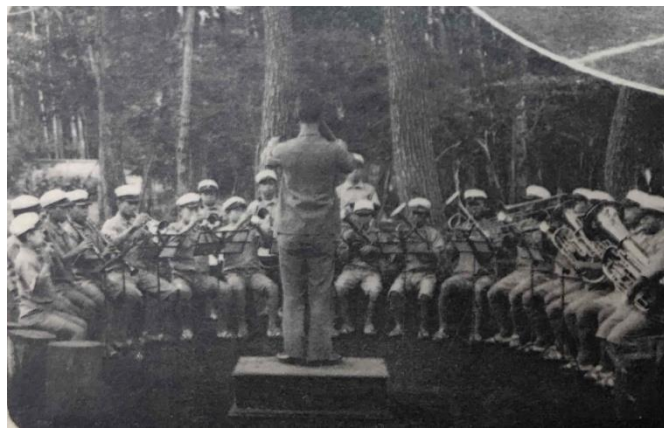
感化部顧問  
三好退蔵

創立当時の井之頭学校(養育院六十年史より)



ミシン裁縫科の作業 昭和 7 年  
（創立六十周年記念写真帖より）

井之頭バンド とすれば荒み果てようとする生徒の情操を滋養するため、昭和 2 年 2 月子爵渋谷敬三氏の好意により設けられたるものにして、全陸軍軍楽隊長春日嘉藤次氏指導の下に朝夕研鑽して止まず、井之頭公園に武蔵野の野趣を求めて杖を曳いた都人士が、思いかげず森の彼方より亮々たる楽の音を耳にするのはこのバンドの演奏である。（創立六十周年記念写真帖、p.35）



井之頭学校バンド 昭和 7 年  
（創立六十周年記念写真帖より）

渋谷敬三は渋谷栄一の孫であり、日本銀行総裁、大蔵大臣を務めた人物です。

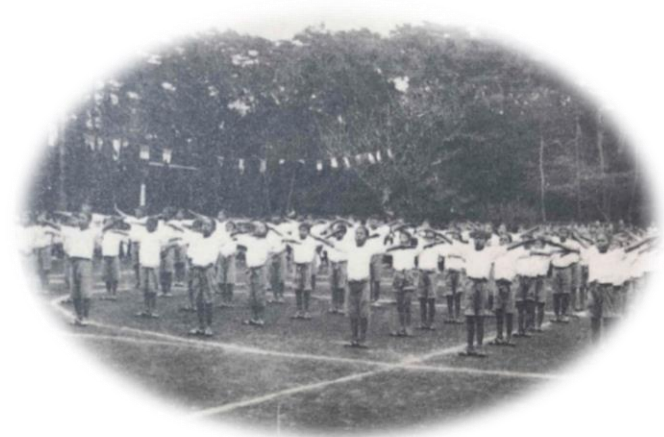
井之頭学校バンドが 1930（昭和 5）年の感化部開設満 30 年・井之頭学校となって満 25 年の記念運動会で演奏を披露した時の記録があります。養育院月報より旧字を修正し句読点を補って引用します。

井之頭学校の誇りバンド演奏に移ったのが十二時十五分、照り輝やける白日の下、幾千の観衆に囲まれた野外のステージに、日頃訓練の技量を発揮せんとする彼等バンドの面々の得意さや何と形容しよう。（中略）演じ続けられる奏楽は、高く上っては遮ぎるものもない秋空一面を、森にこだましてはこの学園を、忽ちにしてこの世ならぬ雅楽浄土と化せしめ、満場の人々をして悉く陶醉せしめた。小学生たちがそのメロディーに調子を合せて旗を振っているのも気持ちよく眺められた。（養育院月報 352 号、p.20）

このように、井之頭学校バンドの演奏の腕前はかなりのものだったようですね。運動会は年に一度の学校開放日でもあり、近隣住民や近隣小学校の児童たちも大勢やってきたようです。

運動会では「各小学校生徒を招待して、単に観覧を乞うのみでなく更に競技に参加せしめて、各校間の対校レースを遂行せしむることによって、その生徒等からは勿論その父兄達からも非常な人気を得て来た」（養育院月報 352 号、p.18）と、地域に親しまれたイベントであった様子が書かれていました。

1930 年 10 月 17 日に行われた記念運動会には、渋谷栄一と渋谷敬三も来賓として見学に来て、栄一は開会式で挨拶をしたことも記載されています。非行少年たちの教育施設だった井之頭学校ですが、今回読み解いた資料からは、栄一や敬三だけではなく、近隣住民からも見守られていた様子が伝わってくるのではないのでしょうか。



運動会 昭和 6 年（創立六十周年記念写真帖より）

#### 【参考文献】

東京都健康長寿医療センター編（2023）『東京都健康長寿医療センター病院、研究所開設 50 年・養育院創立 150 年記念誌』東京都健康長寿医療センター。  
東京市養育院編著（1932）『創立 60 周年記念写真帖』東京市養育院。  
東京市養育院編（1930）『東京市養育院月報』第 352 号。

